

平成 29 年度 鹿児島県看護協会 鹿児島地区第 3 回研修会

『地域で取り組む感染対策』

日時：2017 年 9 月 2 日（土）10：00～16：00

会場：鹿児島県市町村自治会館 4 階 401 号室

特定非営利活動法人 日本感染管理支援協会

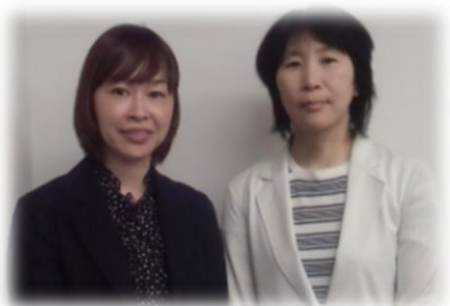
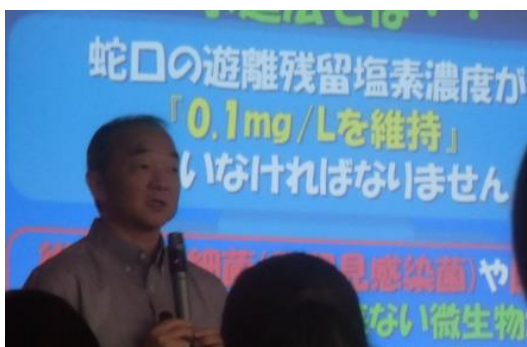
社会医療法人緑泉会 まろにえ介護老人保健施設

鹿児島厚生連病院

理事長 土井英史 先生

感染管理認定看護師 前永和枝 先生

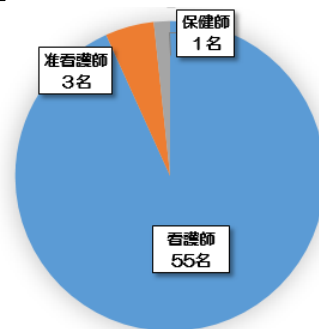
感染管理認定看護師 秋山久美 先生



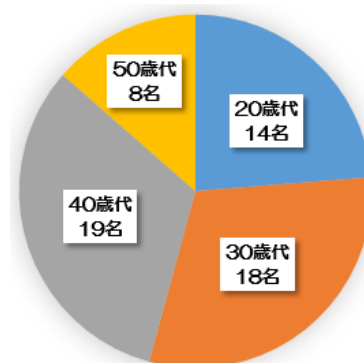
* 参加者 69 名
(会員 64 名 非会員 5 名)

* アンケート回収数 59 名

< 職種 >



< 年齢 >



< 参加動機 >

- テーマにひかれたから 38 名
- 人に勧められたから 12 名
- その他 9 名
 - ・土井先生の研修だから 4 名
 - ・リンクナース委員のため 4 名
 - ・自施設から参加するように言われた

1 名

<質疑応答>

- Q. 体温計、マンシエツト等患者別にしていない。体温計は毎回ルビスタで拭いているが、マンシエツトはどうしたらよいか。

マンシエツトは定期的に洗浄するか、清拭できるタイプの物を使用するとよい。ただし、拭き方の手順を決める必要がある。感染患者の場合は個別化しているので、いかに交差感染を防ぐかを考える必要がある。

- Q. 口腔内吸引のチューブ洗浄は水道水でよいか。アルコール綿で拭いた方がよいか。ディスポが理想的だがチューブの交換を1日1回としている。構わないか。

洗浄は水道水で構わない。分泌物に応じてアルコール綿を使用するとよい。チューブを毎回交換する必要はないが、吸引の手順をしっかり作り、遵守する事が大切である。

- Q. スポンジは2個準備し使用後は洗浄、乾燥させ毎日交換、1か月で破棄している。意味のないことか。

使用頻度にもよるので、基準を決めるとよい。

- Q. 患者の痰を拭き取ったティッシュは一般ごみとしてよいか。

汗以外の物は感染性と捉える。
環境省の「感染性廃棄物処理マニュアル」を参考にするとよい。

<研修内容の評価>

- とてもよかった 42名
- よかった 16名
- ふつう 1名



<研修の感想やご意見>

- 概論と実践どちらもわかりやすく、学びの多い研修だった。
- 自施設で行える対策を考える良い機会となった。実践に活かしていきたい。
- 国内外の動向を知る事ができ、感染対策の視野を広げる機会になった。
- 認定看護師の活動の実際は学びになった。
- ギャップ分析、日頃スルーしていたギャップを改めて聞くと、問題が多いと感じた。
- スタッフが実践しなければ意味がないことを実感し、文化をつくることは簡単ではないと感じた。
- できていない事をひとつずつ改善して行こうと思った。

研修を終えて

今回の研修では、「今ある姿」と「ねばならない姿」のギャップから対策を検討する事が大切だと改めて学ぶことができました。質疑応答では認定看護師のお二人から現場での具体的な実践方法をお話し頂き参考になったのではないのでしょうか。施設によって使える資源には限りがあります。無駄は省き、最善の感染対策を講じる事が出来るよう今回の研修を現場にフィードバックし、活かしていきましょう。

教育委員会 恒吉里美

～ナースシップ 仲間をふやそう!!～
鹿児島地区は、看護協会員 6000人 に達しました!!

入会希望の方は
こちらから!!



入会してポイントを貯めよう! 当日入会も
出来ますよ~(*^_^*)/

